

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100453		
法人名	株式会社コスモライン		
事業所名	グループホーム和の杜		
所在地	北海道釧路市星が浦大通3-2-14		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住みやすい環境作りをはじめ、その日その日を大切に目配り気配りに努め、衣・食・排を重視したケアをおこなっている。

利用者・職員がありのままの姿で向き合う事で、より良い関係作りができています。

職員は仲間を大切にチームとしての自覚を持ち一体となって生き生きと働いている。

看取りケアを通して学んだ事を活かして日々ケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100453-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100453-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月30日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎えたこの事業所では、認知症高齢者がゆったりと安心して生活ができる生活空間の確保やサービスの提供を心がけている。事業所理念の他に、「3つの約束」として理念実践に向けた具体的な方向性を示し介護サービスが提供されている。10年という期間において培ったサービス及び援助の技術は、サービス提供場面において多様に活用されている。大きな特色として、事業所では終末期対応を実践することを明言している。専門的な医療関係機関と密接な連携を図り、利用者及び家族が希望される場合にはその需要に応えており、職員も対応について自信を持って臨んでいる。また同法人は、近接町内や管内に複数の地域密着型事業所を運営し、それぞれの事業所と高齢者の分野を問わず日常的に交流を行っている。開設以来、職員の入れ替わりが少なく、前述のサービスが向上した大きな理由であり、合わせて職員の間関係も良好で意思疎通や連携が確保され、熱心に取り組む姿勢は利用者及び家族との信頼関係の形成に繋がっている。節目を迎えたこの事業所では、管理者以下職員により今後に向けた介護サービス向上のためのプランも想定されており、熱心かつ誠実な取り組みのもとで更なる飛躍が期待できる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し職員が意識するように努め、馴染みの環境の中で仲良く助け合い、明るく生き甲斐のある暮らしが出来るよう努めている。	事業所では、地域に密着した理念を掲げ、事業所内に掲示し職員、利用者、家族、来訪者が確認できるように掲示している。職員は順次「認知症実践者研修」に参加し、その中の講義課題である理念構築について学び定期的に報告するなど、理念の実践の必要性を学習している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に住宅街が少なく事業所が多いが、施設の事を理解してもらい冬期間の除雪などの協力を得ていると共に防災時などの協力もお願いしている。	事業所周辺は民家が少ないが、周辺で事業を行っている会社の社員などと日常的に交流があり、冬季の除雪や防災訓練への参加などにおいて協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住宅街が少ないが町内会へ加入している。又新たに他の施設が出来、イベント参加等交流を図っている。民家へも防災時などの協力をお願いしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域包括支援センター・町内会・看護師等に参加をして頂き、年6回の実施に向けて取り組んでいる。日々の生活の様子や、様々な状況を報告し話し合いサービス向上に努めている。	今年度は定期的に(2か月に1度)運営推進会議が開催されている。会議では事業所での活動報告を中心として防災対策や事故防止について話し合いが行われている。外部からの医療専門職の参加もみられ、高齢者の在宅医療に関する情報交換も行われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告等必要に応じて連絡を取り働きかけている。	市に運営推進会議の内容を報告し、運営について随時助言をもらえるように円滑に連携が図られている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場にたったサービス提供に努める」と心して受け止めている。夜間帯のみ施錠している。	身体拘束の事例はなく、定例で開催されるスタッフ会議では研修課題として定期的に身体拘束について検討や学習が行われている。事業所周辺は民家が少なく、夜間については防犯上の理由により玄関を施錠しているが、行動を抑制するものではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場を尊重し、自分の身に置き換えたらと、マニュアルの読み返しなど皆で話し合いを行い、声掛けも気をつける様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学んでいる。家族より相談を受けた場合は対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かい事についても説明し、不安や疑問点があれば、さらに説明を行い、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に、困った事や気になる事等が無いが、こちらから訊ねたり、気軽に話せる関係作りを行い、意見がある際は聴きすぐに反映している。	運営推進会議や面会時の会話、カンファレンスにおいて利用者家族から意見・要望を伺っている。サービスの質の向上につながるように定例のスタッフ会議などで検討を行い運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて情報・意見交換を行うと共に、日々個々に意見がある際は聞く機会を多く設け、反映させている。	職員の意見は定例で開催されるスタッフ会議を中心に意見交換が行われ、サービスの質の向上につながるように対応が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の仕事への緊張感を軽減できる時間を大切にしながら、生き生きと働ける環境作りを心掛けている。又常に向上心を持って働く様はたらしかしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や日々のケアを通して、介護技術の指導、職員のケアの内容に目配りし、気が付いた時は都度働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流を行い情報交換などを行い、その後も交流をし情報交換など行っている。また他のホームとの交換研修を受け交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望相談時より何度か会い顔を覚えて頂き、環境の変った不安・知らない人への不安において安心して貰えるよう慎重に働きかけ、信頼して頂ける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを選択された家族の気持ちを十分に受け止め、良く聴き、気が付いた事等を遠慮なく話せる雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている状況を見極め、様々なサービスの相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	知恵・知識等を含め場面場面で学び、助け合い、感情を共感しあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族・家族あつての利用者の関係を大切にして、より深く理解し合える関係づくり努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活暦等を詳細に聞き取り、安心して暮らせるよう配慮している。友人の訪問・昔馴染みの場所へのドライブ等関係が切れないように努めている。	家族、親類、知人が利用者を訪問することが多々あり、お茶を出すなど来訪を円滑に迎えられるように支援を行っている。家族が利用者との外出を希望することも多くあり、外出準備を行うなど、関係継続のための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重してその人らしさを生かし、心身の状態なども考慮し、楽しく過ごせる様見守りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移動された利用者に継続して面会へ行く、看取りケースの法要に参列したり、家族の来訪により昔話をしたり関係作りを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の今までの生活歴を把握し、本人希望や意向に添える様努めている。又困難なケースは都度皆で話対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族やケアマネージャーより情報をもらっている。又日々の暮らしのなかで本人より話を聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケースの過ごし方、心身の状態、出来る事・出来ない事を把握して情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態に合わせ、本人や家族と話し合いをして、より良い生活が送れるよう介護計画を作成している。また、重度のケースは医師・看護師の助言を聴き介護計画を作成している。	事業所では担当制をとり、状態に合わせたモニタリングと介護計画の変更を行っている。定例で開催されるスタッフ会議では入居者全員のカンファレンスを行い、医療専門分野からの助言を反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態、ケアの内容を細かく日誌に記入し情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度その時々に応じて柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同系列のホームへ訪問や、消防訓練・町内会行事へ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援診療所との医療連携により、定期的に医師の往診があり適切な医療が受られるようにしている。	利用者及び家族の意向を確認し主治医への受診支援を行っている。事業所では入居が長期化し重度化する傾向も強いために、希望により往診が可能な医療機関との連携も図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと月2回の契約を結んでおり、訪問時には常に日々の生活の様子を伝え、指示や助言があった際は実行し経過を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医との連携により、入院時は速やかに行っている。又入院中も面会し症状が緩和されホームでのケアが可能になったと医師の判断時は早期退院しホームで安心して生活できるよう病院の相談員と連絡をとり対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状態により、早期に看取り介護について家族と相談・話し合いを十分におこない、往診医とも話しあい同意のもとに方針を共有している。	事業所では利用者や家族の希望を伺い、終末期の対応の意思を確認している。医療機関職員を交えて話し合いを行い、日常的連携を図りながら複数の終末期対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故等を想定した訓練をおこなっている。マニュアルの読み返し等も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いの訓練を年2回・自主訓練を何回か行い、事態に戸惑わないようにしている。地域の方々に案内文を配り協力依頼をしている。緊急連絡網の活用している。	周辺の事業所、地域の方々が参加し、定期的に火災を想定した避難訓練を実施している。また、非難誘導訓練や地震対応訓練、緊急連絡網訓練など、多様にわたった災害を想定した対応訓練が行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないように、言葉掛けや居室の開閉・出入りなどに配慮している。個人情報等も会議で話し合っている。	接遇や秘密保持などの個人の尊厳にかかわる事項について、定期的にスタッフ会議で研修議題に取り上げて職員へ意識付けし、認識を共有するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを察し、希望などが言いやすい環境作り心掛けています。又自分で選べる状況作りも心かけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に個々の介護の状態なども含め不安の無いよう過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に着やすく動きやすいおしゃれが出来る様支援している。美容は散髪ボランティアがきてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などは本人の好みの物を聴き一緒に食材を切ったり、皆で食事を楽しんでいる。又調理方法も個々にしている。	食事対応の専門職員を配置し、利用者自身からの希望を伺いながら献立をたて、嗜好に合わせた食事の提供を行っている。キザミ食やとろみ、粥食の提供など利用者の嚥下や咀嚼能力に合わせた対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や器の工夫をし、水分も飲みやすい物に変える等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の洗浄が困難なケースが多く、義歯洗浄は職員が対応し、口腔内は個別に付き添ってしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせた排泄パターンを記録し、昼はトイレ介助、夜は尿取りパット使用しながらトイレ誘導して気持ちよい排泄が出来るようにしている。	事業所では高齢、重度化が進み、排泄自立へ向けた取り組みも困難であるが、定時誘導やリハビリパンツの使用など、自立に向けての対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便の状態を記録し、水分摂取・運動・食事に気をつけている。又便秘症の方には、往診時医師に相談し下剤服用するときもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の身体的状態を考慮しながら、その時々で入浴を楽しめる様に支援している。又重度のケースは職員2名対応で危険の無いようにしている。	可能な限り同性介助を基本としている。入浴を嫌う利用者も多いが、気分や状態を見極めて、声掛け誘導などを行い入浴機会を確保するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態、状況に応じて、昼寝をしたり、横になったり休息が取れる様支援している。又夜間は安心して眠れる様職員も言葉掛け等気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に保管し、内容も個別にファイルしている。職員は良く理解して皆で症状の変化等の確認に努めている。又服薬変更時も同様である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「やりたいという気持ちを尊重して」出来る事を楽しみながら行ってもらえる様支援している。又個々の趣味も体調に合わせて出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出・ドライブ・買い物・自宅へ行く等行っている。又重度のケースはベランダを活用し戸外行事をしたり、居室内の装飾に気をつけている。	入居者は日常的に散歩を行ったり、隣の町内の同一法人が運営している事業所に立ち寄り、地域と密接な関係の中で生活を送っている。事業所としても外出行事を定期的に計画し、活気ある生活が送れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事への理解が困難になってきているケースには外出の際に所持するよう対応し、困難で無いケースについては、家族と話し常時所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにいる家族からの電話や手紙への返事や、友人に宛て手紙を書いたり電話をしたり出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や鉢植え等を置き季節にちなんだ飾りつけを行っている。床暖房の設置を22年11月に行い、各居室にて加湿器の使用もしている。	事業所共用スペースは、開放的で季節や旬の装飾が利用者と共同で行われている。また、高齢者には馴染みの深い花札をモチーフにした居住表示が入居者の目を和ませている。加湿器や床暖房などにより、心地よく過ごせるように整備や工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々状況に応じて配慮し廊下の一部に植え込みの椅子があり、気の合った同士で過ごせるソファを利用しての一人の時間作りなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、その人が好まれたもの、使い慣れたもの等があれば持って来てもらっている。	事業所では入居者が使い慣れた品々を持ち込み、入居後の生活が安定するように、入居時に助言を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かして安全に生活出来る様に、手摺りの配置や各居室に表札、トイレへの案内張り紙等工夫をしている。		